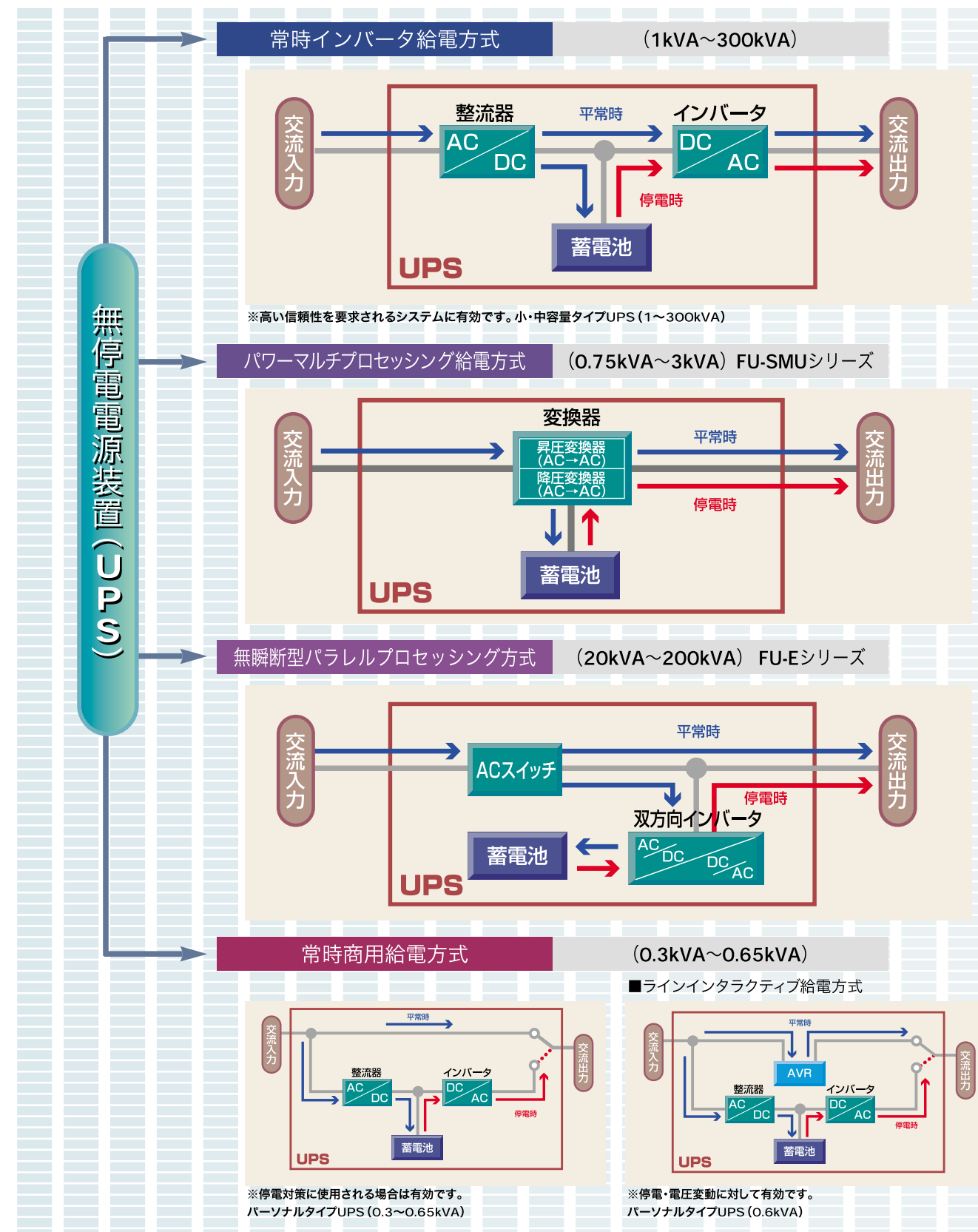


UPSにはどんな方式があるの？

選ぶときの重要なポイントです ▶ 常時商用給電方式は停電時に電気がとぎれる方式です！

UPSの機能と特長



常時インバータ給電方式

- 通常、常にUPSを通して機器に電力を供給します。
- 停電時でも無瞬断で電力を供給します。
- システムの信頼性をさらに向上させる並列冗長運転が可能です (一部機種)。

■主な適用システム

- 高い信頼性が要求されるシステム
- 金融機関などのオンラインシステム
- インターネットプロバイダー
- 公共放送通信機器
- 医療管理システム
- 防災管理システム
- 重要なサーバ、ワークステーション

劣悪な電源環境で使用されるシステム

- 多雷地域・瞬時電圧上昇低下多発する地域
- 電源雑音の多い地域

パワーマルチプロセッシング給電方式

無瞬断型パレルプロセッシング方式

常時商用給電方式

- 通常運転時は商用電源を直接負荷に給電するとともに、停電に備えて充電器により蓄電池を充電します。
- 停電時には、インバータ側に切り替わり、蓄電池の電力を交流に変換して供給します。

常時商用給電方式

- 停電からインバータ側に切り替わるまで5~10ms程度の瞬断が発生します。(単位(秒):1000ms=1s)

■主な適用システム

- 電源が瞬断しても正常に働くシステム
- 個人ユース用パソコンなど

ラインインタラクティブ給電方式は常時商用給電方式に「電圧安定化機能」(AVR:Automatic Voltage Regulator)をつけた方式

■主な適用システム

- 商用電源電圧が毎日変動する地域で使用されるシステム
- 個人ユース用パソコンなど

常時インバータ給電方式

高信頼

<メリット>

- 無瞬断切替 (高信頼)
- 常に一定の電圧・周波数
- 入力電源の電圧変動・ノイズが改善できる

<デメリット>

- 回路がやや複雑になる
- 通常インバータ給電となるため、内部損失が発生し運転コストがやや高い

パワーマルチプロセッシング給電方式

<メリット>

- 無瞬断切替
- 変換ロス、損失が少なく高効率(93%)、省エネルギーでなおかつ、常時インバータと同等の出力電圧特性も選定できます。

無瞬断型パレルプロセッシング方式

<メリット>

- 無瞬断切替
- 高効率(97%)・省エネルギー
- 低価格・省スペース

※平常時の出力電圧精度、周波数精度は交流入力に依存するため、一部のデータコム装置(CVCF専用装置等)には使用できない場合があります。

※突入電流が生じる動力負荷には使用できない場合があります。動力負荷への導入の際には別途ご相談ください。

常時商用給電方式

<メリット>

- 低価格・小型・軽量
- 通常運転時のUPS内部損失が少なく運転コストが安い

<デメリット>

- 停電時に瞬断あり(10ms以下)(瞬断許容される場合のみ)
- 入力電源の電圧変動・ノイズが改善されない

ラインインタラクティブ方式の特徴は、常時商用給電方式+「電圧安定化機能」

- 入力電圧を安定して供給できる

低価格